

実践⑦ 県立川内高等学校

1 はじめに

川内高等学校は明治30年創立、平成29年に120周年を迎えた歴史と伝統のある普通科高等学校である。令和2年4月現在856名が在籍し、文武両道取組日本一を目指して、勉学と部活動に思い切り打ち込める最適な環境のもと、教育活動を展開している。

本校図書館は、平成26年からの校舎改築に伴い、2度の移転を経て現在の場所になる。音楽練習室・地歴公民講義室と同じ階にあり、利用しやすい環境である。

生徒の一人当たりの貸出冊数は、令和元年度は11.9冊であった。



2 図書委員会の組織

図書委員会は任期1年、各クラス1名の合計23名で構成される。4月、委員へ本校図書館をどのような雰囲気にしていきたいかや興味・関心、仕事希望等の調査を実施し、方向性を確認後、活動を開始する。学年縦割り班により仕事に取り組むため、協働意識をもって活動している。また、委員全体で生徒主体の図書館という意識を共有している。

3 特色ある取組

(1) 総合的な探究の時間

本校では、総合的な探究の時間に生徒の主体的な活動を積極的に推進しており、図書館もその支援を行っている。

1年生 (前期) ディベート：主に資料相談・提供を行う。

(後期) 地域探究：今年度、1年生全員が薩摩川内市から「薩摩川内市みらいアドバイザー」を委嘱され、活動している。市が課題として挙げたテーマを3～4人単位で探究し、3月に代表者が解決案をプレゼンテーションする予定である。司書と担当教員でテーマに関する情報を共有し、関連資料を購入した。



2・3年生 課題探究（興味・関心・進路に関連した個人の探究活動）

主に資料相談・資料提供を行う。生徒は2年間で1つの課題に取り組むため、課題設定から探究・発表まで時間を掛けて丁寧に行うことができている。資料相談では、以下の3点を心掛けている。

- ・ 探究内容や資料活用後の方向性の確認
- ・ 探究内容に関する日本十進分類法の紹介
- ・ 館内の進路・小論文対策本、新書コーナーの案内

本校の生徒は、日頃から資料相談の内容を的確に言語化できたり、日本十進分類法を知っていたりする割合が高く、レファレンス・インタビューに悩むことが少ない。

(2) 読書月間（春・秋の年2回実施）

ア ポスター（春）

例年、図書委員全員でポスターを作成し掲示している。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の休校、学年別登校措置により実施できなかった。

イ ポスター・クイズ制作・展示・校内一斉読書会（秋）

図書委員全員がポスター班・クイズ制作班・展示班に分かれて活動する。ポスター班には、事前に著作権法について説明し、違反しないよう指導した。

校内一斉読書会では例年、放送部に朗読協力を依頼している。今年度の課題図書は、『注文をまちがえる料理店』（小国士朗 著、あさ出版）。20分程度で読み終わるように抜粋した。課題図書は、生徒のものの捉え方を深め、生き方等を考える契機になるよう、生徒指導部・読書指導係が中心となり様々なジャンルから選定している。

朗読後は感想文記入、感想交流・意見交換等を実施した。感想文は回収し、学年・氏名を隠してファイリングし、図書館内の生徒の目に触れる場所に保管している。



4 学校内連携

(1) 教職員

- ア 生徒指導部読書指導係は各教科1名＋司書で構成し、年に2回の係会を実施。主に、校内一斉読書会の課題図書選定、購入希望図書に関する各科の意見集約をしている。
- イ 1・2年生については、10月に国語科と協力し、館内読書の時間を設けている。
- ウ 図書館内での生徒の様子を観察し、必要に応じて生徒指導部教育相談係や担任と情報を共有している。

(2) 事務職員

月に1回、事務職員間で打合せを行い、前後1か月の業務内容を共有している。設備購入の際は、司書の意見や他校の状況も参考にするなど、風通しのよい職場環境である。今年度は図書館ソフト一式と新型コロナウイルス対策用パネルを購入した。

5 今後の課題

(1) 不読傾向の改善

忙しくて読めない、読みたい本がないという声を聞くことがある。読書の優先順位が上がるよう、図書館だよりや展示・資料購入に生徒の声を反映していきたい。

(2) 総合的な探究の時間における情報の扱い方

2学期から総合的な探究の時間にスマホ・タブレット等の持込使用が許可された。授業で使用しているテキスト（『課題探究メソッド』岡本尚也 啓林館）を参考に、情報の扱い方について発信したい。また、相互貸借制度を活用し、幅広い資料提供に努めたい。

6 おわりに

シェイクスピアは、「人生は選択の連続である」と言った。今の目標は、選択に悩んだり困ったりしたときに、本や図書館を相談相手の選択肢の一つに入れてもらうこと。今後も、生涯学習の基盤として未来を担う生徒を支援し続けたい。